

暮らしの広場

がん
克服へ
【41】
工藤 明敏

■大腸がん編



緩和ケア

がんという病名を告げずに手術や化学療法を行うことは、最近ほとんどなくなりました。そのためがんが再発したことも説明することになります。医療者にとって悪い知らせをいかに伝えるかは、良い手術を行う以上に難しいことがあります。

プライ
バシーが
保たれて
いる環境

悪い知らせを伝える

か▽十分な時間はあるか▽患者さんの理解度に合わせた分かりやすい説明か▽標準的な治療を提示できるか▽患者さんが希望を持てる情報も伝えられるか▽日常生活や仕事のサポートについて説明したか▽今後も責任を持って診療にあたり決して見捨てないことを伝えたいかーなど、多くの課題があります。

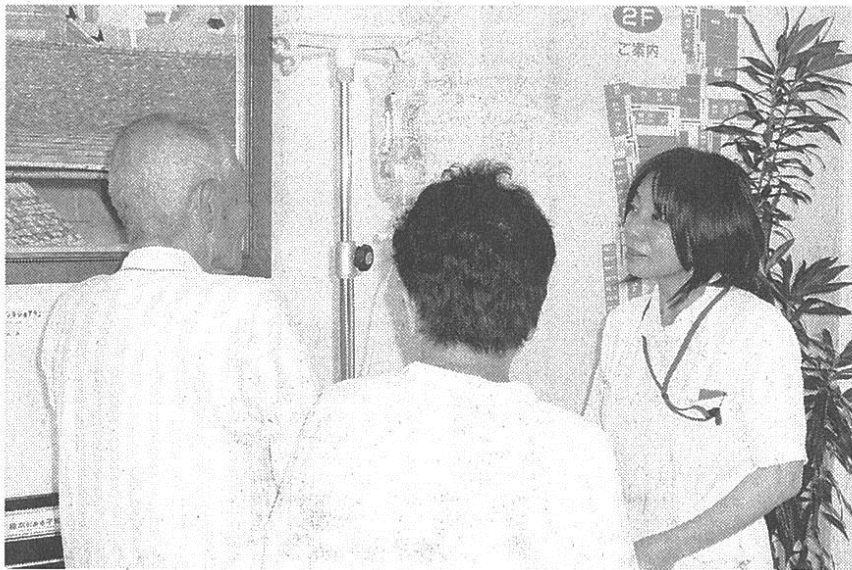
また事前に、患者さんと誰と説明を聞きたいかを確認し、希望する家族の同席を促すようにしています。

患者さんと目を合わせ、感情の変化を見ながら言葉を選択しなければなりません。病気についてどれくらい知りたいかを見極める必要もあります。すべての患者さんがすべての情報を知りたいと望んでいるわけではありません。説明を要約した紙を渡して、後でゆっくり読み返してもらいます。

患者さん、家族から突然、

「死ぬんですか」と怒りや恐怖をあらわにされることもあり、対応に窮する場合があります。「大丈夫、心配いりません」と安易に励ましたり、雄弁に説き伏せようとしても

「死ぬんですか」と怒りや恐怖をあらわにされることもあり、対応に窮する場合があります。「大丈夫、心配いりません」と安易に励ましたり、雄弁に説き伏せようとしても



化学療法中の患者と付き添いの家族と話す
武重病棟看護師長

一番気になることは何でしょうか(探索)▽○○のようにならうに今後対応して行きましよう(提示)
患者さんが終末期に大切にしたいことのアンケート結果を以下に示します。
苦痛がない▽望んだ場所で過ごす▽希望や楽しみがある▽医師や看護師を信頼できる▽家族にお金などの負担をかけたくない▽家族や友人と一緒に過ごす▽静かな環境で過ごす▽身の回りのことが自分でできる▽ものや子ども扱いされない(など)です。

できるだけの治療をしたい、最期までがんと闘う方がいらっしやれば、自然な形で最期を迎えたいと願う方もおられます。

医療者は、今後も責任をもって診療にあたり、決して見捨てることはありません。

(阿知須共立病院診療部長、外科部長)

＝原則第2火曜日に掲載